

真空地帯

鑑賞日：2017・2・27

制作 1952 年 新星映画社

上映時間 129 分

監督 山本薩夫

原作 野間 宏

出演 木村 功、神田隆、三島雅夫、下元勉、加藤嘉、西村晃一、岡田英次
花沢徳衛、佐野浅夫、沼崎勲、高原駿雄、金子信雄、利根はる恵

(あらすじ)

陸軍刑務所での服役を終えて仮釈放となった木谷一等兵（上等兵から降等）（木村功）は、敗色濃厚となりつつあった 1944 年の冬に、古巣の大阪歩兵聯隊歩兵砲中隊に復職する。木谷は聯隊経理室勤務の事務要員であったが、経理委員間の主導権争いに巻き込まれ、上官の財布を窃盗した疑いで軍法会議にかけられた。馴染みの娼婦花枝（利根はる恵）から押収された木谷の手紙の一節は反軍的とみなされたのである。刑務所での苦しい生活から解放され戻ってきた木谷だが、中隊では木谷を知る者は古い下士官しかおらず、内務班の兵隊は年次が下の現役古参兵と初年兵の学徒兵、それに応召された中年の補充兵ばかりであった。古参兵は野戦行きの噂に怯え、学徒兵は慣れない兵隊生活に戸惑い、班内は荒れていた。

古参兵どもは、木谷がどこから帰って来たのか詮索しようとするが、本人が明かさないので、陸軍病院下番(退院)だと思っている。そのうちどこからともなく、陸軍刑務所に入っていたと分かり、しかも自分たちより軍隊生活の長い最古参の 4 年兵であると知って、班内は微妙な空気に包まれる。ある夜、班内で監獄帰りと揶揄した初年兵掛上等兵をさんざんに打ちのめした木谷は、4 年兵の権威をもって班内の全員を整列させ、「監獄帰りはそんなにおかしのか」とわめきながら一人一人にビンタを見舞うのだった。孤立状態のなか、木谷はもとの経理室の要員を訪ねるのだが、皆に敬遠されてしまう。中隊事務室で事務補助をしている曾田一等兵(下元勉)は激しいリンチのまかり通る軍隊のことを、一般社会から隔離された『真空地帯』だと表現していた……

(解説)

原作『真空地帯』は野間宏の書き下ろし長編小説で、1952 年 2 月、河出書房から刊行され、毎日出版文化賞を受賞した。原作者は、1941 年大阪歩兵第 37 聯隊に入営後、43 年左翼運動の前歴を憲兵に詮索され、治安維持法違反容疑で軍法会議にかけられて、大阪陸軍刑務所に半年入所した。その時の体験が色濃く反映されている。また、監督の山本薩夫は、すでに東宝で演出家として働いていたが、1945 年に応召され、千葉県佐倉市の佐倉連隊に二等兵として入営し、その後、中国で内務班に送られ、上官から理不尽な私的制裁を受けた経験をもっている。それだけに映画での私的制裁の描写はすさまじいものがあり、公開当時の「キネマ旬報」では「軍隊の狂気の秩序をつくりだす真空状況を力強くうつし出した」と評価している。